

高粱の文化收藏品

今月号は、有漢生涯学習センターに收藏されている「綱島梁川の直筆原稿」を紹介いたします。

■問い合わせ 有漢公民館 (☎02013)

【綱島梁川の直筆原稿】



明治の思想界をリードした宗教思想家、綱島梁川の直筆原稿が数多くの遺品類と共に、出身地有漢町の綱島梁川顕彰会で保管されています。

これまで有漢社会教育センターの梁川記念室にその一部が保管されていましたが、昨年3月、東京の遺族から五百点余の遺品が寄託され、現在、有漢生涯学習センターにも收藏されています。

生涯にわたる日記や書簡、文

献類、中でも文筆をもって世に知られた梁川の直筆原稿が多数含まれています。思想家としての到達点を示す絶筆の「労働と人生」や「我とは何ぞや」などがあります。

梁川は、本名・栄一郎といひ、1873(明治6)年、有漢市場で誕生し、18歳ごろ上京。東京専門学校(現・早稲田大学)を出て活躍し、1907(明治40)年、結核のため長い闘病の末、34歳という若さで東京で没しています。

梁川は、明治後期の高山樗牛、西田幾多郎と並ぶ三大思想家の一人であり、西欧倫理学研究の先駆者でした。また、白隠、法然、親鸞など仏教の理解者であり、日本的キリスト教徒であったといわれています。

著作には、一躍全国的な注目と反響を呼んだといわれる梁川文集、病間録、回光録をはじめ、春秋倫理思想史、寸光録、我観録、そして梁川全集十巻があります。

シリーズ

歴史まちづくりセミナー ④

歴史まちづくり計画から「神輿と歴史的町並み」織り成す風情」について紹介します。

■問い合わせ 歴史まちづくり課 (☎0257)

①古くから続く神社祭礼

御前神社は宝亀6(775)年の創建といわれ、歴代城主の信仰を集めました。元和7(1621)年に小高下から現在地(御前町)へ遷宮され、本殿は明治14(1881)年に再建されています。かつての祭礼日は9月11日でしたが、現在は10月第2日曜日です。

八幡神社は延暦年間(782~806)の創建といわれ、お城の鎮守として歴代城主の崇敬を受け、本殿は貞享4(1687)年に藩主水谷氏により再建、江戸時代後期には5つの八幡宮の中心でした。江戸時代には8月23日(のち25日)に祭礼が営まれ、市中の家々では戸口に盛砂をして、神輿、槍、鉄砲、大弓などの行列を迎えました。現在は10

月第2日曜日が祭礼日です。

②神輿が巡る町並み

御前神社の神輿は主に紺屋川から北、八幡神社の神輿は主に紺屋川から南を巡り、沿道には歴史的な建造物が多く残されています。

神輿が巡る本町、下町、南町の通りは松山往来と呼ばれた街道で、ほぼ直線に配され備中松山城の大手道の要素もありました。かつての商売の中心地で、平入りの町家が建ち並んでいます。町家には優れた意匠の出格子・虫籠窓・絵様持ち送りなどがあり、伝統をうかがわせます。

石火矢町の旧塙原家、旧折井家の武家屋敷やそ

の周辺の中之町や片原町、向町などでは、土塀が連続し、武家町の面影を残しています。武家町は町人町を囲むように配されていました。

頼久寺町、寺町、和田町には藩主や藩士ゆかりの寺院が多く連なり、城郭を思わせる石垣を築いています。この一連の寺院群は、有事には軍事的な防衛線にもなり、他に類を見ない独特の景観です。

さらに、順正齋跡、高粱基督教会堂、旧高粱尋常高等小学校(現・高粱市郷土資料館)の近代建築が、神輿の巡幸に彩を添えています。

神輿が巡幸する姿は、伝統行事と歴史的な町並みが一体となって、歴史的な風情を醸し出しています。

